

環境への取り組み

環境ビジョン・基本方針

日立金属グループは、日立の環境ビジョンである「低炭素社会」「高度循環社会」「自然共生社会」を重要な3つの柱として、ステークホルダーとの協創による、社会イノベーション事業を通じて環境課題を解決し、生活の質の向上と持続可能な社会の両立を実現することをめざします。また、日立のめざす環境長期目標「環境イノベーション2050」を達成するための必要な役割を果たしていきます。

日立グループ環境ビジョン



日立金属グループ環境基本方針

- 理念** 日立金属グループは「最良の会社」を具現して社会に貢献することを経営の基本理念としている。この基本理念に基づき、人類共通の財産を後世へ健全な状態で承継するために、環境配慮を経営上の重要課題として位置付け、地球環境、地域社会環境の保全を積極的に推進する。
- スローガン**
- 地球環境保全は人類共通の重要課題であることを認識し、環境と調和した持続可能な社会の実現を経営の最優先課題の一つとして取り組み、社会的責任を果たす。
 - 地球環境保全および資源有限性への配慮に関するニーズを的確に把握し、これに対応する高度で信頼性の高い技術および製品を開発することにより社会に貢献する。
- 推進体制** 環境管理組織の機能整備と監督機能の充実のため、環境担当役員を頂点としたグループ環境管理組織、運営制度を整備し、環境関連規程の整備、環境負荷削減目標の設定などにより環境保全活動を推進しています。さらに、その活動が適切で有効に行われていることを確認し、継続的改善に努めています。

日立金属グループの行動計画

日立金属グループは、3カ年の中期環境計画に基づき活動を推進しています。

2019～2021年度の中期環境計画は下記の計画となり、それぞれの負荷低減活動を進めてきました。2019年度の結果は、その負荷低減活動の成果以上に生産量減少の低下などの影響

が大きく、環境親和型重点製品および、CO₂原単位改善率で計画未達となりましたが、廃棄物発生量原単位改善率や水使用量原単位改善率で計画を達成しました。

トピックスでは、負荷低減活動の具体例を紹介いたします。

2019年度の取り組み実績と2021年度計画

2019年度の実施策(計画)	2019年度の実施策(成果)	2021年度施策の計画
・環境教育を本社および各事業所で実施(継続)	・環境監査員養成研修実施(2回)	・環境監査員養成研修実施(1回以上)
・環境親和型重点製品の売上比率(23%)	・環境親和型重点製品の売上比率(20.2%)	・環境親和型重点製品の売上比率(25%)
・CO ₂ 原単位改善率の削減(基準年度(2010年度)対比5%)	・CO ₂ 原単位改善率の削減(基準年度(2010年度)対比1.4%)	・CO ₂ 原単位改善率の削減(基準年度(2010年度)対比7%)
・廃棄物発生量原単位改善率(基準年度(2010年度)対比12%)	・廃棄物発生量原単位改善率(基準年度(2010年度)対比17%)	・廃棄物発生量原単位改善率(基準年度(2010年度)対比14%)
・廃棄物の埋立率(14%)*	・廃棄物の埋立率(13.7%)	・廃棄物の埋立率(12%)
・水使用量原単位改善率(基準年度(2010年度)対比22%)	・水使用量原単位改善率(基準年度(2010年度)対比22%)	・水使用量原単位改善率(基準年度(2010年度)対比26%)

*:生活ゴミ、有害廃棄物、自社埋立(場内埋立)を除く

Topics CO₂排出量削減に向けた取り組み

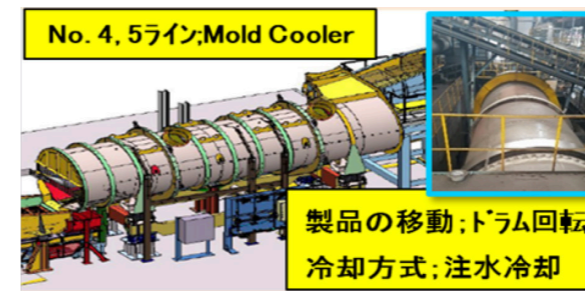
韓国の工場における省エネルギー活動

自動車部品の鋳物素材を主力製品としている南陽金属株式会社(大邱)では、金属鋳造のための溶湯生産を行う誘導炉の電力がエネルギー使用量の70%以上を占めています。同社では、年間稼働率向上や溶湯の回収率向上、不良率低減などを指標とした改善活動に継続的に取り組んでおり、その一環として、2018年には5つの生産ラインに、新型のスクラップ予熱装置を導入しました。電気よりもエネルギー効率の高いLPGを使用することで、スクラップを短時間で目標温度まで加熱することが可能になりました。また2019年には、エネルギー効率の高いモールド冷却設備(Casting Cooler)を装備した6つの新鋳造ラインを設置し、エネルギーコストを

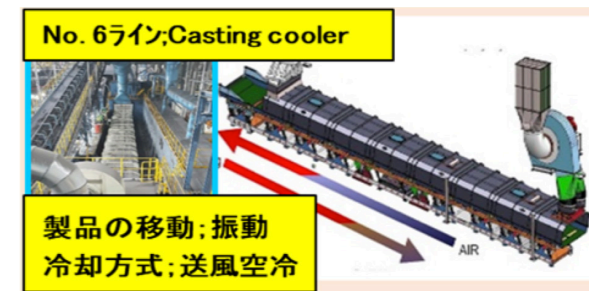
約30%低減しています。製品の移動がドラム式から振動式に変わったことで、製品同士の衝突が少なくなり不良率の低減にもつながっています。



スクラップ予熱設備



モールド冷却設備 従来型



モールド冷却設備 Casting Cooler